



心膜液貯留

■ 病気の概要

心臓を包む袋（心膜）の中に液体が異常に貯まる病気です。液体が増えると心臓が圧迫され（心タンポナーデ）、血液を十分に送り出せなくなります。犬では血管肉腫（心臓腫瘍）が最も多い原因で、ゴールデンレトリバー・ジャーマン・シェパードなどの大型犬に多く見られます。

■ 主な症状（飼い主さんが気づくサイン）

- ・突然の元気消失・虚脱
- ・腹部の膨満（腹水）
- ・呼吸困難
- ・失神・倒れる
- ・歯茎が白っぽい（ショックのサイン）

■ どんな検査をするの？

- ・心臓超音波検査（心膜液の確認・腫瘍の有無）
- ・胸部 X 線検査
- ・CT 検査：専門施設をご紹介します
- ・血液検査
- ・心膜液の採取・検査

■ 治療方法

内科治療

- ・心膜穿刺（心臓周りに溜まった液体を抜く処置）
- ・利尿薬・心臓薬（補助的）の内服

外科治療

- ・心膜切除術（再発予防）：専門医と連携して対応
- ・腫瘍切除術（切除可能な場合）

■ ご家庭で気をつけること

- ・ 安静を保つ
- ・ 定期的な心エコー検査
- ・ 運動制限の継続
- ・ 急変時の早期受診

■ よくある質問

Q. 原因は何ですか？

A. 犬では血管肉腫（心臓腫瘍）が最も多いです。原因によって予後が変わります。

Q. 一度液体を抜くとまた貯まりますか？

A. 腫瘍性では再貯留が多いです。心膜切除術で再貯留を防ぐことができます。

■ なつ動物病院での診療について

心膜穿刺による緊急処置と内科管理に対応します。手術が必要な場合は専門医と連携します。

「突然ぐったりした」「お腹が膨らんできた」大型犬は、すぐにご連絡ください。診察時間内は最優先で対応します。夜間・時間外は北九州夜間救急動物病院（車で約 40 分）または福岡夜間救急動物病院（車で約 90 分）をご利用ください。

なつ動物病院 気になることがあれば、予約外でもお気軽にご来院ください